

- 巻数 全13巻(全26号を合本)
- 体裁 A5判・並製・総約3,000頁
- 監修 龍溪章雄(龍谷大学文学部教授)
- 推薦 中西直樹(龍谷大学文学部教授)
- 推 薦 赤松徹眞(本願寺史料研究所所長)
- 揃価格 本体78,000円+税(分売不可)

第1回配本 全6巻(第1号〜第12号) 2018年11月刊行
 本体36,000円+税 ISBN 978-4-86691-036-9
 第2回配本 全7巻(第13号〜第26号) 2019年5月刊行
 本体42,000円+税 ISBN 978-4-86691-043-7

高輪学報 第五拾五号
 目要
 ○婆羅門論
 ○精神生活に於ける宗教の地位(承前)
 ○歴史上より見たる真言宗(前承)
 ○上代歸化の外人
 ○宗教に就て
 ○婆羅門教と印度教(承前)
 ○婆羅門教と印度教(承前)
 ○余の宗教観(承前)
 ○英文無量壽經和譯(承前)

清水 嘿爾
 内田 融
 源良 澄
 田淵 友彦
 波多野 精一
 松原 玉文
 佐竹 棧堂
 中野 芳涯
 徳富猪一郎
 藤井 芳信

明治卅四年十月發行
高輪学報
 學 文 書

高輪学報 第五拾五号
 目要
 ○印度小乗教發達の土地及大乘教の系統
 ○歴史上より見たる真言宗
 ○精神生活に於る宗教の地位(承前)
 ○精神生活に於る宗教の地位(承前)
 ○精神生活に於る宗教の地位(承前)
 ○予が宗教的生涯の一斑
 ○米國觀察錄
 ○波羅門教と印度教(承前)
 ○佛基零碎錄(七)
 ○英文大无量壽經和譯(承前)

前田 慧雲
 源 良澄
 内田 融
 松原 玉文
 堀 謙三
 内村 謙三
 堀 謙三
 佐竹 棧堂
 中野 芳涯
 藤井 芳信

関連図書のご案内 (すべて既刊です)

- 中西直樹編・解題
仏教植民地布教史資料集成〈朝鮮編〉全7巻
 体裁 A5判・上製・総3,880頁
 揃定価 本体175,000円+税 全2回配本
- 中西直樹編・監修
仏教植民地布教史資料集成〈台湾編〉全6巻
 体裁 B5判・A5判・上製・総3,082頁
 揃定価 本体150,000円+税 全2回配本
- 中西直樹・野世英水・大澤広嗣編・監修
仏教植民地布教史資料集成〈満州・諸地域編〉全8巻
 体裁 A5判・B5判・上製・総約3,800頁
 揃定価 本体200,000円+税 全3回配本
- 中西直樹著
植民地朝鮮と日本仏教
 体裁 A5判・上製・312頁
 定価 本体4,800円+税
 2013年6月刊
- 中西直樹著
植民地台湾と日本仏教
 体裁 A5判・上製・360頁
 定価 本体4,800円+税
 2016年6月刊
- 海外宣教会和文・英仏文機関誌「明治21年〜26年」
海外佛教事情
 THE BLOU OF ASIA 全3巻
 監修 中西直樹・吉永進一
 体裁 B5判・上製・総1,078頁
 揃定価 本体90,000円+税 全2回配本

●表示はすべて税別

三人社

〒606-8316
 京都市左京区吉田二本松町4 白亜荘
 電話 075-762-0368
 FAX 075-762-0369
 http://3ninsha.com/

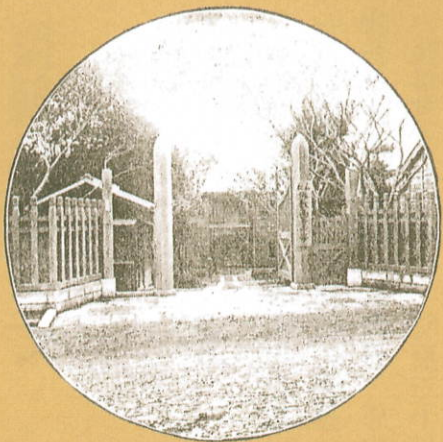
ご注文は書店様または直接上記までお申し込みください。

明治三十年代、宗教・哲学・文学・教育の諸領域に、多大な影響を与えた、一仏教大学の校友会誌全26号を復刻！

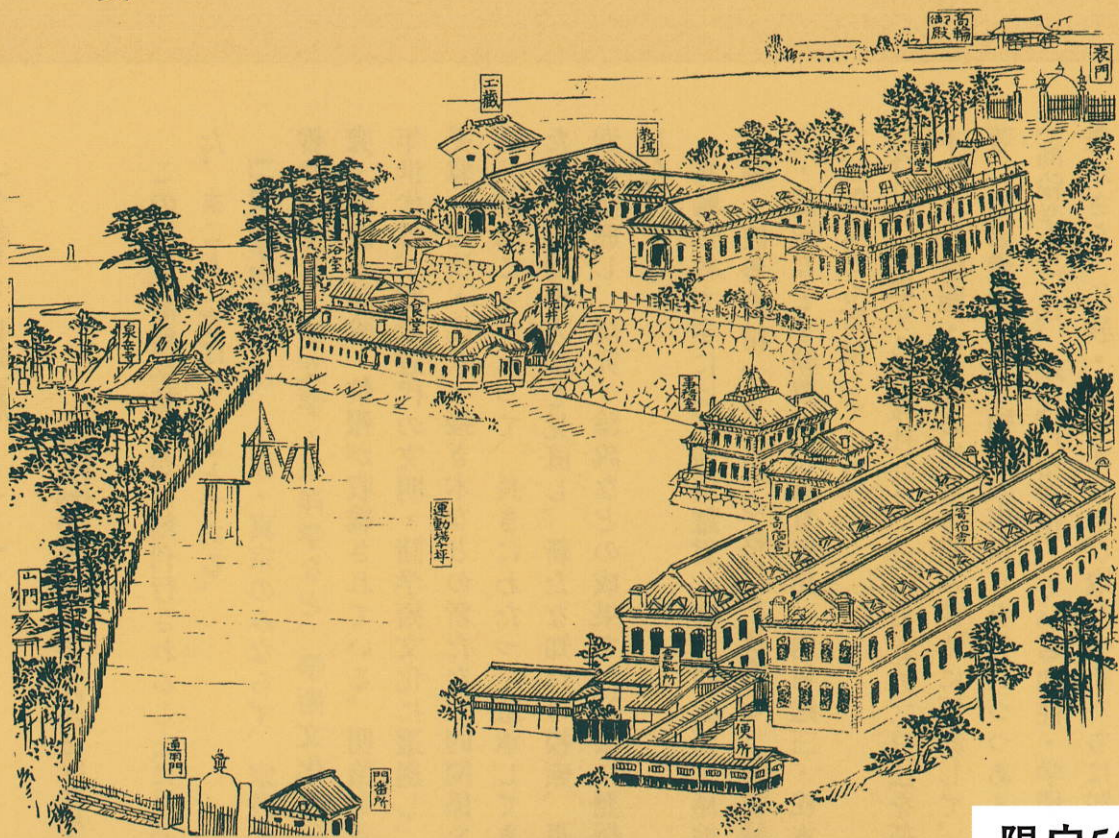
1901年〜1903年

高輪学報

復刻版 全13巻



- 監修 龍溪章雄(龍谷大学文学部教授)
- 監修 中西直樹(龍谷大学文学部教授)
- 体裁 A5判・並製・総約3,000頁
- 刊行 2018年11月 刊行開始
- ★第1回配本 本体36,000円+税



佛敎高等中学並びに佛敎中学の全図
 「婦人雜誌」155号(明治33年12月発行)より転載

三人社

限定50部

復刻にあたって

龍溪章雄（龍谷大学文学部教授）
中西直樹（龍谷大学文学部教授）

明治二十年代、青雲の志を抱いた青年仏教者たちは東京を目指した。彼らは、帝国大学や早稲田・慶應に学び、宗派の垣根をこえて結束すると仏教青年会を組織し、仏教界・思想界の革新を訴え、斬新な仏教弘通のための諸事業を展開した。明治三十年に入ると、宗派当局も東京進出を企図して高等教育機関を開設し、これが新たな仏教潮流を生む拠点となった。そして、その代表的存在が、明治三十四年に真宗本願寺派が京都仏教大学（現龍谷大学）の東京分教場として開設した「高輪仏教大学」であった。

高輪仏教大学では、前田慧雲・高楠順次郎・島地大等ら本願寺派の碩学をはじめ、小日向定次郎（英文学者）・波多野精一（宗教哲学者）・上田敏（英文学者）・斯波貞吉（後に衆議院議員）・高瀬武次郎（陽明学者）ら多彩な教員スタッフが教鞭を執った。

その校友会誌である『高輪学報』には、高輪仏教大学教員のほか、高木兼寛・志賀重昂・内村鑑三・徳富猪一郎（蘇峰）・郡司成忠・沢柳政太郎・松本文三郎ら各界を代表する著名人が寄稿した。また彙報欄では、学内団体「万国仏教青年連合会」の動向、海外布教などで活躍する同窓生・関係者の動静などが伝えられ、仏典英文翻訳も附録として収録された。

このように、『高輪学報』は一学校の校友会誌に止まらず、学術・教育・宗教の諸領域の関係者に大きなネットワークを有したが、その革新性を問題視する宗派内保守派の策動により、高輪仏教大学が明治三十七年に廃校に追い込まれ廃刊となった。わずか数年の刊行ではあったが、『高輪学報』が多方面に与えた影響の大きさに鑑み、ここに全号を復刻するものである。

推薦

本書を推薦します

赤松徹眞（本願寺史料研究所所長）

この度、『高輪学報』が復刻刊行されることになった。まことに喜ばしいことである。

『高輪学報』には、仏教・真宗のみならず、宗教・哲学・文学・英文学・東洋学など、学術文化の研究・論説・評論・彙報が収載されている。明治の青年世代は、欧米近代の文明・諸学術文化に遭遇し、受容・対決・比較・接ぎ木などの新たな知的関係を切り結ぶことによって、長きにわたって継承してきた学術分野の方法を見直し、新たな知性の模索、思索を徹底し、研究・論説などの成果を、社会に発信した。

高輪仏教大学には、前田慧雲・高楠順次郎・島地大等・波多野精一ら精鋭の教員が在職し、研究論文・論説などを執筆し、志賀重昂・内村鑑三・松本文三郎なども寄稿していた。

今日、進展する情報社会は、二項対立の二分法を基本にした情報・知性の処理・組み替えに傾斜して、著しく思索の深さ、知性の広がりや失いつつある。『高輪学報』は、現代に希薄化している知性・学術の豊かさを、仏教・真宗から学び取り、私たちに知らしめるものとなるう。

高輪学報

第壹號

〔明治三十四年十月三十一日發行〕

研究

大乘非佛説に對する考

前田 慧雲

第一章 大乘非佛説の概要及之に對する舊來の辨駁

大乘非佛説と云へる説は、印度に在ては、佛滅後二百年頃、小乗の或る一部の徒より唱出せしものなるが、吾日本に於ては、元祿の頃、富永仲基始めて之を『出定後語』の中に唱へ、尋で服部天游之を、赤裸々』に和説し、平田篤胤亦之を『出定笑語』に敷衍せり。其後西人艾約瑟、迪謹氏、支那文を以て『釋教正謬』を著はし、又頻に大乘非佛説を唱へり。近年に至ては、世間學者頗る其説に和同し、殆ど之を以て定説となさんとするの勢あり。今諸氏の説を綜合して、試に其要を摘めば左の如し。曰く、佛滅後

創刊号より

原寸内容見本

